

### マツノマダラカミキリの後食予防によるマツ類枯損防止試験 III

#### カミキリの保線虫数からみた後食予防必要期間の推定

林業試験場九州支場 岩 崎 厚  
森 本 桂

マツノマダラカミキリからマツノザイセンチュウが離脱する期間は、マツに材線虫が侵入する危険期間である。

この期間はすでに著者らによって、カミキリの羽化経過と材線虫の離脱経過の組合せから、5月中旬～8月中旬の3か月で、6～7月の2か月は特に危険であることが推定されていたが、今回カミキリの線虫保持率と保線虫数から危険期間を推定したので報告する。

#### 調査方法

林試九州支場構内に1973年7月5日から8月15日まで誘引器を2器設置して、誘引されたマツノマダラカミキリを解剖して、線虫保持率と保線虫数を調べた。また同構内のヒマラヤシードーから採集したカミキリも、同様に調べた。

#### 結果と考察

この間に解剖したカミキリは142頭で、結果は図-1に示した。

マツノマダラカミキリ1頭当りの保持線虫数は、7月になって急に減少し、7月25日以降は極めて少ない。線虫保持率も段々低下して、8月10日以降はほとんど零であった。

この結果を、カミキリの羽化経過と材線虫離脱経過との組合せから推定した昨年の結果と比較すると、今回の結果は10～15日早く保線虫数が低下していることがわかる。この違いは、調査法の違いによるものか、または今年の空梅雨という気象条件が関係しているか明らかでないが、今後資料の集積でこの点は解明されるものと思う。

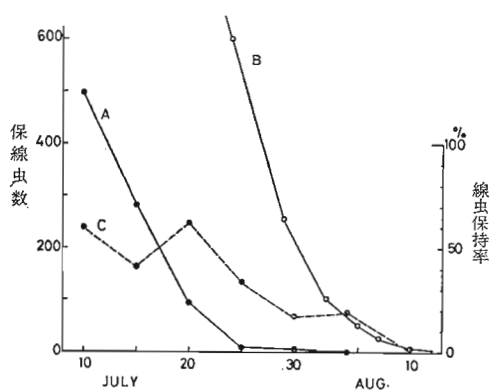


図-1 マツノマダラカミキリ保線虫数と線虫保持率  
A: カミキリの保線虫数  
B: 同、羽化経過と線虫落下経過からの推定値 (森本・岩崎, 1973による)  
C: カミキリの線虫保持率

#### 参考文献

- 森本 桂・岩崎 厚: マツノマダラカミキリの後食予防によるマツ類枯損防止試験。I・後食予防必要期間の推定。日林九州支部研論26: 201~202 1973
- 森本 桂・岩崎 厚: マツノマダラカミキリの後食予防必要期間の推定。森林防疫22 (1): 19~22, 1973